

2					
主題	一人一人に合わせプログラム「夢プラン」を通して見えてきた、 デイサービスの持つ意義について				
副題	～やりがいが増した職員～ ～生きがいが増した〇〇さん～				
キーワード 1	ピアノが弾けた！	キーワード 2	英語で歌が・・・	研究(実践)期間	34ヶ月

法人名・事業所名	社会福祉法人 三育ライフ 東久留米市幸町デイサービスセンター
発表者(職種)	二渡明美(主任ケアワーカー)
共同研究(実践)者	栗林香苗(相談員) 小野奈美紀(ケアワーカー) 木村貴博(管理者)

電話	042-470-8187	FAX	042-470-8188
----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	平成18年に東久留米市で公設民営として開設し今年度で11年目になります。現在の定員は34名。平均介護度1.1と活動的なご利用者が多く、毎日多種多様なプログラムを提供し活気溢れるデイサービスを展開している。
-------	--

<p>《1. 研究前(実践)の状況と課題》</p> <p>当施設では登録人数(95名)のうち約30%のご利用者が要支援1・2の方で、全体的にも自立心が高いご利用者が集うデイサービスという特徴がある。その為一人一人のご利用者がデイサービスに期待する物、叶えたいこと等意欲的な方が多く、その望みを可能な限り実現できるように支援することが私達の重要課題と常に捉えてきた。この課題をクリアするために当施設のスタッフは身体的介護技術とは別に、より多くの知識や若者男女に通用する雑学等を身に着ける必要があります。多彩な趣味活動や外出プログラムの立案等を考える事で各自が日々の業務でプレッシャーや精神的負担となっていることの要因にもなっている状況がある。</p> <p>《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》</p> <p>ご利用者の望みを叶えるプロジェクト「夢プラン」の検証を行う事により「職員の努力は必ずご利用者の利益になっている！」そして個々のご利用者に合わせてプログラムを提供する事により、より「在宅生活に好影響を与えている！」という仮説を立て検証することにした。</p> <p>《3. 具体的な取り組みの内容》</p> <p>一人一人の要望にできる限り答えて行こうという趣旨の「夢プラン」を実践して行く上で、今回の研究に際して事例を2例取り上げる。</p> <p>① 対象者：事例1、「今年はピアノが弾けるようになりたい」男性M様・93歳 事例2、「㊤英語を教えたい・㊦英語を習いたい」男性A様・77歳 女性B様・92歳</p> <p>② 取り組みの手順</p>
--

事例1のケースでは「今まで楽器に触れたことが無い」「93歳高齢」を課題とし敢えて夢を叶えるチャレンジを共にしてみようと取り組むことにした。

事例2のケースでは、市内ケアマネージャーより「英語力を活かしたいという方と、英語を学びたいという方」両方を紹介したいとお話を頂き「英語クラブ」発足に直ぐに取り組んだ。

③取り組み時間及び期間

事例1. 平成29年4月下旬より活動を実施し毎来所時（火・金）午前のみ日によって30分～1.5時間のピアノ練習を行う。研究期間8月までの約4ヶ月。

事例2. 男性A様の利用開始が始まった同年10月より本格的に始動する。毎週火曜日・午前のみ1.5時間。研究期間平成29年8月までの約34ヶ月。

④必要とした人員と施設の関わり

事例1. ピアノ講師として非常勤職員1名

事例2. 管理者・ボランティア・介護等体験目的で来所される大学生・職場体験の市内中学生

《4. 取り組みの結果》

事例1. 職員が抱いていた不安は（弾けるのか？）取り組みを始めて直ぐに払拭されていった。日に日にピアノの演奏が形となって上達して行く姿を捉えられていった。

事例2. 34ヶ月という長い期間「英語クラブ」を止めることなく継続することとなる。利用者主体のクラブ活動という今までに無い取り組みを実現するために、職員は最小限の助言と時折目標を提案することによりデイに来る目的と楽しみを実現していることを確認した。

《5. 考察、まとめ》

今回の研究では一人一人にしっかりと目を向け、当施設に通う喜びを何に感じているかを探り、ご利用者の持つポテンシャルを最大限に引き出すことで、ご利用者の活動意欲や自己欲求を満らし他者と同じ目的を共有することで生きる証、生き甲斐を感じると推測した。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

①医療現場でのレクリエーション②グループコミュニケーションプログラム

《8. 提案と発信》

介護保険改正の度に、デイサービスの核となっていたと思われるレクリエーションやアクティビティープログラムに対する評価が低いように感じる。その証拠として身体機能の向上が数値化しやすいものが重要視されていると思われる。私達の取り組みとしてADLの維持向上を目指すと共に、デイサービスに来る意義として「楽しい・心地良い」を感じて頂くことを最も大切にしてきた。高齢者・障害者などハンディキャップを持った人達の社会的欲求や知的・心理的欲求を満たすために、これからも関わる高齢者様に生きる喜びを最大限に感じて頂けるように努力を続けて行く所存だが、在宅サービスを減らす方向に見えてしまう行政の動きに、私達はデイサービスの重要性を再認識して頂けるよう存在意義を更にアピールし示して行きたい。